

太宰府市側

番号	該当箇所	ご意見	ご意見への対応
1	表紙	<p>元号法(昭和五十四年六月十二日法律第四十三号)に基づき、「令和元年12月」とすべきである。</p> <p>令和の元号は、萬葉集に収められた、大宰府の同伴旅人宅での開花した梅を囲む雅宴の歌で「梅花の歌三十二首并せて序」、「時に、初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を抜き、蘭は珮後の香を薫す。」から引用されたものである。(「万葉集」巻第五中西進著参照)</p> <p>改元に際しての安倍内閣総理大臣談話でも、「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味がこめられておりますと述べられている。</p> <p>歴史的には「大宰府」と行政的には「太宰府」と記載しておきます。</p> <p>「令和」の元号が、太宰府に由来するものであるならば、「令和」と表示すべきである。何故、西暦を使用しなければならないのか理由を問う。</p> <p>元号法(昭和五十四年六月十二日法律第四十三号)国等の公的機関は、元号を使用することが決められている。元号法が制定された第八十七回国会、衆議院、参議院での質疑・採決の会議録を添付するので一読されたい。</p> <p>元号法がどういうものなのか、しっかりと認識をして頂きたい。</p>	<p>表紙の発行年表記については、ご意見の通り元号表記とさせていただきます。</p> <p>補足として西暦も併せて表記いたします。</p>
2	<p>保存活用計画策定の目的と経過</p> <p>第1章 第5節 3</p>	<p>宝満山の史跡は、殆どが大宰府市側に存在している。</p> <p>まず、太宰府は、前述のとおり、どういう歴史のあるまちであるのかということ筑紫野市は理解をすべきである。</p> <p>「大宰府学の考察」がなされていないのである。だから、太宰府市と筑紫野市とを並列にして述べられていて、筑紫野市に太宰府市を併合させるような記載になっているのである。</p> <p>大宰府にあっての宝満山という前提条件となるものが、抜けていると考察する。</p> <p>筑紫野市教育委員会・太宰府市教育委員会は、この点どのように考えているのか、見解を問う。</p> <p>また、太宰府市には、「歴史とみどり豊かな文化のまち」という将来像なり、理念がある。</p> <p>筑紫野市には、そういうものが無いとみる。</p> <p>この点も疑問に持ち、筑紫野市は将来太宰府市を併合の材料にしようとしていると考察する。</p> <p>この点を筑紫野市教育委員会・太宰府市教育委員会に問う。</p>	<p>史跡宝満山は第3章 に示しているように、筑紫野市と太宰府市の両市にまたがる一体の史跡です。そのため、第1章第1節 及び第1章第5節 に示すとおり、史跡の管理団体として筑紫野市と太宰府市で計画策定を行うものです。</p>
3	<p>保存活用計画策定の目的と経過</p> <p>第1章 第5節 3</p>	<p>太宰府市と同等に宝満山保存活用計画(案)を纏めていくには、歴史、史跡等が異なるから厳しいと考察します。</p> <p>宝満山保存活用計画策定委員の先生方には、多大なる御尽力を賜ったこと感謝申し上げます。</p>	<p>前述のように、史跡宝満山は一つの史跡として筑紫野市と太宰府市に所在します。第1章第1節 及び第1章第5節 に示すとおり、史跡の管理団体として筑紫野市と太宰府市で計画策定を行うものです。</p>

番号	該当箇所	ご意見	ご意見への対応
4	<p>位置と環境</p> <p>第2章 第1節 第3節</p>	<p>大宰府は、天皇の詔を奉じて政治を行う役所という意味であると伝えられている。 宣化天皇元年、筑紫の那の津に宮家が置かれたのが大宰府の起源とも言われている。 大和朝廷が国内を統一したのが四世紀頃であり、五世紀に、朝鮮半島に任那日本府が設けられ、それに関係する役所が博多に設けられたとされる。 朝鮮半島では、新羅、百済、高句麗の三国が並立し、三国勢の対立に介在した。しかし、大伴金村の政策の誤りにより任那は滅亡したとされる。このことが契機となり、朝鮮半島の前線基地的な役割を大宰府が高めていった。</p> <p>大化改新の後、斉明天皇は百済応援のため皇太子中大兄皇子とともに新羅遠征軍を率いて九州に下向されて、さらに朝倉の宮に移られて百済応援の計画を練られたが、この地で崩御された。皇太子中大兄皇子は、筑紫に留まられて、安曇野比羅夫などに命じ百済に向かわせ、白村江の戦いで唐・新羅連合軍に惨敗して百済は滅亡した。この敗戦が、新羅の来襲に備えて防衛をかためるため水城の堤防が築かれたものである。こめ頃、大宰府は、那の津宮家から水城大堤、大野城に囲まれた都府楼へ移転したと思われる。 大宰府の都市は、平城京のような条坊制が引かれた広大な大陸に相似した文化的な都市が完成したものである。 後に、唐、新羅等との外交関係が成立すると外交使節との対応が大宰府の役目となった。遣唐使も博多の港から出入りし、大陸文化の受け入れ口ともなった。 大宰府は、西海道を統治する大宰府政庁が置かれてアジア大陸との外交・防衛・交易の要衝として、「アジアの原点」に立った都市となった。</p> <p>天平十三年聖武天皇の勅命により建立された筑前国分寺、斉明天皇・戦没将兵の菩提を弔うために天智天皇の発願により建立された観世音寺、聖武天皇の勅願により天平六年に建立された鑑真和上ゆかりの日本三戒壇の一つである戒壇院が設けられた。 延喜元年正月、突如として、右大臣菅原道真公は、大宰権帥に左遷された。官舎として現在の榎寺が配所としてあてがわれた。しかし、粗末な配所であった由、惨憺たる生活であったと伝えられている。延喜三年二月二五日、配流の逼迫した生活を送られたのち生涯をとりられた。 その亡骸は、門弟の味酒安行と同伴に守られて東北の方(宝満山の方角)に向けて葬送していると、牛車が動かなくなり、その地に埋葬をしたと伝えられている。 延喜五年、味酒安行により、この地に祠廟が建立された。 これが今日の「太宰府天満宮」の起源である。また、天神信仰の基礎をなしたといわれている。</p> <p>康和三年、大宰権帥大江匡房によって、菅公の霊を慰めるために配所であった榎寺までの神幸式が始められた。また、神幸式は、皇室の安泰と国家の平安、五穀豊穡を願うものである。 寛和二年、大宰大貳菅原輔正により、鬼すべの神事が始められた。これは、災難消除、開運招福を願う祭りである。 近世になり、慶応元年一月から二年間、幕末激動期に尊王擁夷派公家の三条実美卿をはじめとする五卿様の太宰府への幽居により、明治維新の立役者、西郷隆盛、坂本竜馬などの勤王の志士が五卿様を訪れている。 大宰府政庁の東南の鬼門の方向に、竈門神社が設けられて宝満山頂上には、上宮が立っている。大宰府鎮護の神として祭祀が行われて、白鳳時代には神宮寺の竈門山寺が建てられていた。入唐した、最澄も登山し、航海の安全を祈った。空海も延暦二十二年、ここに祈願をしている。 竈門山寺はその後内山寺と称して、伝教大師は弘仁九年に宝塔院を建立し、内山、南、北谷の三ヶ所は三百七十坊程の隆昌を誇ったといわれている。 戦国時代には、戦乱に巻き込まれて僧坊の殆どが破壊されてしまった。 その後、小早川隆景の宝満宮再興があり、藩主黒田氏の入国後、宝満山は山伏の支配する神社となり、藩主の崇敬をうけて再興ができたのである。しかし、往時の面影は忍ぶことは出来ない。 毎年五月には、竈門神社で入峰、採灯護摩供が行われている。 (参考文献「太宰府天満宮」西高辻信貞著 昭和45年(株)学生社)</p>	<p>史跡宝満山の歴史については、第2章及び第3章第1節に掲げています。</p>

番号	該当箇所	ご意見	ご意見への対応
5	位置と環境 第2章 第2節 3(2)	<p>太宰府市には、第五次太宰府市総合計画後期基本計画、第二次太宰府市都市計画マスタープラン、太宰府市市街化調整区域等整備・保全構想報告書、第三次太宰府市環境基本計画、太宰府市歴史文化基本構想、太宰府市景観形成基本計画、太宰府市景観樹木の調査に関する報告書、太宰府市景観まちづくり計画・景観計画、太宰府市歴史的風致維持向上計画等により、史跡保存等のまちづくりをしているが、筑紫野市は、太宰府市と同様に歴史的遺跡等、市民遺産、景観に配慮した「まちづくり」が行われていないと考察する。</p> <p>太宰府市と同じテーブル上でこれらのことを議論するには、時期尚早と思う。</p> <p>筑紫野市教育委員会・太宰府市教育委員会にこの点についても問う。</p>	<p>本計画は第1章第1節・第2節に示したとおり、史跡の現状を鑑みて関係者間で保存活用の共通指針を早急に取りまとめる必要があるという両市の共通認識の上、策定しております。</p>
6	位置と環境 第2章 第2節 3(2)	<p>竈門神社から登る宝満山への経路はとても険しく、余程の体力、自信がないと勇気が出ません。一度登りましたが、二度は挑戦しがたいと思いました。</p> <p>話は変わりますが、この意見書で「九州自然歩道」についてお話出来ないかと思い投稿しました。令和元年の9月頃、“坂本八幡宮”から自然歩道の立て札をたよりに登ってみました。坂道も最初はなだらかで、標識も分かりやすく進んでいました。ところが、途中から全く分からなくなり、けもの道のような所に迷い込み、坂を滑り降り、転びながら帰り道を索しました。坂本新池 → 岩屋城跡 → 高橋紹運墓 → 萩尾大学墓 → 市民の森キャンプ場にやっとたどり着きホッとしました。</p> <p>ここで、①明確な道標、②休憩を入れる腰掛 ③坂道ではロープを張ったりと、様々な工夫をする事でとても楽しいハイキング並みの登山が出来るのではと思いました。太宰府市に住んで11年になりますが、とても魅力があり大好きになりました。もう少し「九州自然歩道」に手を加えていただければと思い書きました。</p>	<p>九州自然歩道につきましては、環境省長距離自然歩道構想に基づき設置されたものです。太宰府市内のコースについては、太宰府市役所観光推進課が所管しております。担当部署と連携し今後の取り組みに際し、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
7	活用 第9章 第2節 2	<p>行政が主体となって、史跡宝満山への案内等を希望します。</p> <p>年に数回、色々なルート(史跡主体)</p>	<p>第9章第2節2に示していますように、史跡として各種事業に取り組むこととしています。今後の取り組みに際し、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
8	整備 第10章 第2節 4(2)	<p>交通アクセス等については、筑紫野市側の課題であって、太宰府市側は交通アクセス等について、コミュニティバスまほろば号の運行、竈門神社周辺に駐車場が既に整備されている。</p> <p>何故、現在まで、筑紫野市は、宝満山登山口までの公共交通機関、登山者のための駐車場整備等をしなかったのか。</p> <p>また、登山者のための登山口整備との理由付けをして、宝満山を開発しようと考えているのではないか。</p> <p>宝満山は、山岳仏教(修験者)の山で、神聖な山であり、考古学・宗教学、民俗学的に貴重な遺産である。筑紫野市教育委員会・太宰府市教育委員会にこれらの見解を問う。</p>	<p>第10章第2節4(2)に示していますように、筑紫野市側にも駐車場等の整備を検討してまいります。</p> <p>また、整備や活用の方向性については、第9章第1節・第10章第1節に示していますように、史跡の価値を構成している山岳信仰の場を尊重して取り組んでまいります。</p>

番号	該当箇所	ご意見	ご意見への対応
9	整備 第10章 第2節 4(2)	登っていて感じる事は、登山者の半数以上は史跡としての宝満山ではなく、アクセスも良いので登山を楽しむといった人が多いようです。分かりやすい解説板の設置をお願いしたい。	第10章第2節4(2) に示していますように、史跡としての解説板設置に取り組むこととしています。今後の取り組みに際し、ご意見を参考にさせていただきます。
10	整備 第10章 第2節 4(2)	筑紫野市側からのアクセスの悪さは何とかならないものでしょうか。	第10章第2節4(2) に示していますように、筑紫野市側にも駐車場等の整備を検討してまいります。今後の取り組みに際し、ご意見を参考にさせていただきます。
11	全般	宝満山が大好きでよく登っております。この史跡宝満山保存活用計画(案)は専門的及び詳しくすぎてかえって分かりにくいように思います。多くの人に意見を出してもらえるように、もう少しページ数を少なくわかりやすくしてほしいです。	計画書の概要版を作成し、市民の皆様に分かりやすく示してまいります。